

ディレクター日誌（活動・参加者の様子）

期 日：平成28年7月27日(水)～7月30日(土)
場 所：山口県十種ヶ峰青少年自然の家とその周辺山域（阿東町）
参加者：チャレンジプログラム参加児童の保護者（母親7名・父親4名）11名

1日目「開会式～ウォールクライミング」

期 日：平成28年7月27日(水)
場 所：十種ヶ峰青少年自然の家・キャンプ場
テーマ：体験の日（仲間とのアイスブレイキング）

《タイムスケジュール》

- 10：00 開会式～アイスブレイク（ネームゲーム）
- 11：00 ダッフルシャッフル&ピーイング
- 12：50 昼食
- 14：00 体育館発
- 14：20 キャンプ場着・タープ設営他
- 15：00 ウォーミングアップ
- 15：20 ウォールクライミング
- 18：00 夕食準備～夕食
- 19：05 ジャンボさんのお話
- 20：00 ナイトミーティング（Hi-Lo）
- 22：00 就寝

【活動の様子】

今年度の参加者は定員を上回る11名という過去最多となった。我が子をチャレンジプログラムに参加させたい、自分がキャンプを楽しみたい等、参加理由は様々であったが、縁あって出会った仲間たちとの4日間がスタートした。

開会式後、インストラクター（以下：イントラ）のちょくさんのリードのもと、アイスブレイクとして握手やじゃんけんをしながら名前を覚えていくゲームを行った。これからどんなことがあるのだろうと少し緊張気味であった参加者の表情が笑顔に変わり、気持ちがほぐれてきたようだった。次に、ちょくさんから手のひらピーイングについての説明を受け、1枚の旗に各自の手のひらをなぞり書き、その中にこの4日間の目標を書き込んだ。また、チャレンジキャンプで子供たちがしているように、リーダー、ナビ等の役割分担を決めた。

その後、大きなザックに各自が持ってきた荷物や貸出道具、食糧を詰め込むダッフルシャッフルをした。個人の装備は自分で背負うが、共同の装備は誰が何を持つのかを決めなくてはならない。食糧を分けたり、ゴープ（行動食）を袋詰めにしたりと、全員で協力して行っていった。

最初の食事となる昼食は、α米とみそ汁だ。道具の使い方のレクチャーを受けながら、お湯を沸かしたり食器を準備したりとさすがペアレント、作業の手際がよくあっという間に準備が完了した。食事を食べる前の儀式？チャウを行い、みんなでいただきます。味の違うご飯を交換しながら、いろいろと味見。「これがおいしいね。」、「こっちが好き。」などと言い合いながら楽しいランチタイムになった。

片づけ後、いよいよ出発。先ほどのザックを背負うと荷物の重さに心も重く…、子供たちもこんな重いものを背負って今も歩いているのか…、そう思うことでがんばろうと思える。まさに『親思う心に勝る親心』である。みんなで一列になり、今日の宿泊場所へ移動する。移動距離は短い、その間にも地図の見方、コンパスの使い方、声のかけ方等、ちょくさんやサブインストラクター（以下：サブイントラ）のごっちゃんから、明日の山道を歩く活動を見越してのレクチャーがある。宿泊場所に到着後は、テントとタープの設営だ。ペアレントのリピーターや参加者の経験を生かしてあっという間に設営完了。こういう頼もしい親の姿をぜひ子供たちに見せたいものだ。

今日のメインの活動となる十種ヶ峰森のチャレンジコース「クライミングタワー」に挑んだ。命



綱をつなぐハーネスを装着し、やり方の説明を受ける。壁を登るチャレンジャーと命綱を持つビレイヤー等、この活動にも役割分担がある。2グループに分かれ、チャレンジの順番を決める。登る前には自分がどこまで登りたいかみんなに向けて宣言し、聞いた仲間がそれをサポートしていく。とても一人ではできないチャレンジだ。みんなのサポートがあるからこそ、自分がチャレンジできるのだということに気づく活動でもある。

チャレンジが始まると、回数を重ねる毎に周りから声がかかる。自分がチャレンジした後だからできるアドバイスもあるのだろう。下から見ているのと、実際に登ってみるのとでは大違いである。だからこそ、このペアレントプログラムで子どもたちと同様の活動を実際に体験することは意味深いと思う。目の前のホールドに集中し自分の進む道を選択していくチャレンジャー、命綱を持ちそれを真剣に支える仲間、チャレンジャーの達成を自分のことのように喜ぶ仲間、どれも素敵な姿だ。

その後の振り返りでは、「応援の声掛けがよかった。」、「できないと思っていたけどできた。」などの思いを共有した。スタッフからは、グループの様子だけでなく、この活動を通して子育てについての投げかけがあった。チャレンジャーが子どもでビレイヤーが親とした場合、子どものチャレンジをいつもどんなふうにサポートしているだろうか。子どもが落ちないように命綱を張りすぎて学びを奪っていないか、目を離して綱が緩みすぎていないか、子どもが行きたくもないところへ必死で引張りあげていないか。自分が親として子どもにどんなサポートをしていきたいかを考える機会にもなる活動だった。

夕食はクックを中心にラーメンをつくる。台所とは勝手が違うが、あつあつをおいしく食べられるようにと工夫して調理されるところはさすが！食後のコーヒーを飲みながら、本部スタッフのジャンボさんから初代ペアレントプログラムのディレクターとして、また山口県にこのキャンプのプログラムを導入された重鎮の一人として、この活動の普及に努めてきた先駆者たちの思いを語っていただいた。

夜のミーティングでは、一日を振り返ってハイポイント(気持ちの高揚したポイント)とローポイント(気持ちの沈んだポイント)を各自に紹介してもらった。ハイポイントは、クライミングのときの声援がうれしかったこと、うまくビレー(サポート)ができたこと、あきらめなくて登ってよかったことなどがあつた。ローポイントは、ザックをかついだとき、登るのをあきらめかけたとき、自分が手伝えてないと思ったときなど様々であり、ミーティングを通して、同じ活動をしていてもそれぞれ思っていることは違うことが確認できた。また、明日の活動に向けてルート等の確認をし、『全員笑顔でゴールする！』という明日のグループ目標ができ、手のひらピーニングに書き込んだ。チーム名として〇〇イレブンという案が出たが、〇〇に入る言葉は考えておくことになった。

2日目 「バックパッキング～個人ふりかえり」

期 日：平成28年7月28日(木)
場 所：十種ヶ峰青少年自然の家キャンプ場～神角神社
テーマ：挑戦の日(困難の克服と魂の休息)

《タイムスケジュール》

- 5:00 起床、掃除
- 6:00 食事・タープ片付け・出発の準備
- 7:15 キャンプ場発～バックパッキング
- 12:30 神角神社着・タープ設営
- 13:00 個人ふりかえり場へ出発
- 16:40 終了の声かけ開始
- 17:40 個人ふりかえり終了
- 18:20 フルーツパーティー開始
- 20:20 ナイトミーティング
- 22:00 就寝



【活動の様子】

2日目は5時起床。テント、タープを撤収し、朝食。出発前の荷物分けをみんなで納得してするようイントラが声をかける。大切なことはみんなで決めて、みんなでやろうということの確認だ。

7時17分、神角神社に向けて出発。イントラとサブイントラのレクチャーのもと、子どもたちも歩いた山道を歩いていく。重たい荷物を背負って、山道を歩くことは体と心に負担がかかる。その中で仲間とどう歩いたか、どんなことを考えたかをミーティングで共有する。昨日同様、同じ道を歩いても思っていることはそれぞれ違う。「みんなに声掛けできてよかった。」、「昨日のことが生かせた。」、「休みたかったが言えなかった。」、「地図をみんなで見て確認したほうがいい。」、「ついていくのが精一杯だった。」など、それぞれの思いを聞き合うことが次につながっていく。昨日出会ったばかりとは思えないぐらい、自分の思いが素直に話せるのは、大変なこと、嬉しかったことを共に体験してきたからだろう。

休憩も兼ね、個人の振り返りをするためにソロに入る。ソロの場所にディレクターが一人ひとりを順番に案内する。こんなところで！？と驚いた方もいたようだが、案内された場所にブルーシートと銀マットを敷き、ザックを下ろし、ソロトップ（天气が良かったので張らない人がほとんど）を張って、自分の空間の確保をする。ソロ中に各自で昼食をとってもらう。

約3時間のソロの後は、神角神社へ。目を閉じて移動した先に待っていたのは、イントラやサブイントラ、本部スタッフが愛情込めて盛り付けたフルーツが！夕食も兼ねて、みんなでソロ開けフルーツパーティー。ソロで話せなかったぶん、みんなでわいわいおしゃべりしながらの楽しい夕食タイムになった。日ごろ、誰かに食事を準備してもらえないので、すごくうれしかったと感激してもらえ、スタッフもにっこり。

ソロの間どう過ごしていたか、みんなで共有する。蚊と戦っていた人、気持ちよく眠れた人、ジャーナルを書いて振り返りをしていた人、子どもたちのことを考えていた人、山のトイレにチャレンジした人、仲間が何をしているか考えていた人、木漏れ日にほっとした人、リーディング集を読み自分と向き合っていた人、クモが巣を張っているのをじっと見ていた人など、聞き合うことがとても楽しい。お迎えが待ち遠しいと思っていた人もいれば、あつという間だったと思った人もいたようだ。とても贅沢な時間だったとの感想があり、それぞれの場所でそれぞれの時間を思い思いに過ごせることが贅沢なのかもしれないと感じた。

明日に向けてのミーティングでは、今までの活動を生かした積極的な意見交換ができた。「チームプレイで山頂へ」という目標のもと、みんなで歩く中で自分にできることをそれぞれが考え、手のひらピーニングに書き込んだ。また、チーム名が「ほっとイレブン」に決まった。「ほっと」とは、ほっとできる仲間という意味と、熱いハートの意味があり、この11名にぴったりの素敵な名前になった。十種ヶ峰の山頂に向けて、みんなの気持ちを一つにできた夜だった。

3日目「ファイナルツアー〜ピークアタック〜ラストナイトミーティング」

期 日：平成28年7月29日(金)

場 所：神角神社〜十種ヶ峰山頂〜十種ヶ峰青少年自然の家

テーマ：覚醒の日（実行力と協調性）

《タイムスケジュール》

- 5：00 起床〜準備
- 6：00 朝食
- 7：00 神角神社出発
- 11：45 十種ヶ峰山頂到着
- 12：00 昼食
- 12：45 下山開始
- 15：00 十種ヶ峰青少年自然の家着
- 16：45 クリーンナップ終了
- 17：00 入浴



- 18:00 夕食
19:00 ラストナイトミーティング
22:00 個人懇談&各自振り返り
&バンダナメッセージ交換
23:00 ~就寝



【活動の様子】

3日目も晴天。予定通り5時に起きたメンバーは、声をかけながらテントやタープの撤収、朝食、パッキングとすっかり手慣れた様子だ。お世話になった神角神社にお礼をし、7時出発。昨晚のミーティングで共有した思いを胸に、ほっとイレブンのファイナルツアーが始まった。

イントラ、サブイントラは様子を見守りつつ、グループに任せて少し離れて歩く。ナビを中心にみんなで地図を見合い、ルートを確認しながら歩いていく。途中、道とは思えないルートに驚くが、そこには前日子どもたちが踏みしめた足跡が…。「こんなところを子どもたちは歩いたのか…。」
「それならば、行くしかない。」と気持ちを奮い立たせて進んでいく。急な斜面に心が折れそうになるが、子どもが歩いたとなると踏み出す力が出てくる。昨日歩いた時の振り返りを生かして、声を掛け合ったり、休憩をとったりと頼もしいほっとイレブンだ。藪をかき分け、助け合い、手を取りながら力強く進んでいくメンバーの背中を見ていると、自立していく子どもを見守る母親のような心境になった。

11時45分、ジャンボさん、かつさんが待つ十種ヶ峰山頂に到着！お互いに喜びを分かち合いながら、笑顔でハイタッチ！自分たちで担いで上がった水をかけ合い、さらに笑顔！山頂での昼食に、皮をむいた果物がさっと出てくる。疲れた体にフルーツは、最高！子供たちも見ただであろう景色を眺めながら、山頂の時間を楽しんだ。

12時45分、下山開始。昨日登ってきた道を今日は下る。たった1日違うだけでグループが大きく成長していることが歩く姿で分かる。そんな自分たちの変化を感じているのはメンバー自身だろう。十種ヶ峰青少年自然の家では、子どもたちがクリーンアップの真っ最中。出会わないように気をつけながら自然の家に到着した。

到着後、早速クリーンアップ開始。使った道具に感謝をしつつ、テントやタープ、シートを干し、ザックやスパッツ、フードバックなどの汚れを落として乾かす。みんな疲れているはずなのに、てきぱきと作業をしていく。

ダニチェックも兼ねて、2日ぶりのお風呂へ入った。さっぱりしたと思ったら、お父さん2人に小さなダニが付着しているのを発見。そのまま病院に直行して、処置をしてもらう。2人の帰りを待つ間に、今日の夕食、ちらしずしができあがり。なぜか満面の笑みで帰ってきた2人は、その後ダニーズシニアと呼ばれた。

夕食後は自然の家の中でラストナイトミーティング。建物の中だが、あえて電気は使わず、外でのミーティングのように行う。11人全員が、それぞれ一人ずつにサンクスを伝える。ゆっくりとした時間だが、メンバーが伝える言葉すべてが心にしみる。だれかにありがとうと言ってもらえることはうれしい。しかし、だれかにありがとうと言うためには、相手をよく見ていなくてはできない。サンクスにはそんな意味もある。ここで11人が出会って、共に過ごした3日間に感謝だ。その後、子どもたちのラストナイトミーティングの様子を見学にキャンプ場へ行くが、すでに終わっている班があり、子どもたちに気づかれないうちに自然の家へ帰った。

ペアレントプログラムに参加したメンバーのみの特典となる夜の懇談会では、我が子のがんばりをスタッフから聞き、自分の体験と重ね合わせて涙を流すメンバーも。我が子の様子、成長を聞き、明日子供たちに会うことがより楽しみになったようだった。懇談の時間を生かして、他のメンバーは、プログラムの感想を書いたり、バンダナにメッセージを書き込み合ったりした。夜の山喫茶「かつ」も開店し、コーヒーを飲みながら語り合うメンバー。最後の夜を思い思いに過ごし、それぞれが就寝。

4日目 「ファイナルミーティング～閉会式」

期 日：平成28年7月30日(土)
場 所：十種ヶ峰青少年自然の家～各自宅へ
テーマ：旅立ちの日（現実での実践）



《タイムスケジュール》

- 6：00 起床
- 6：30 朝食～片付け&掃除
- 8：30 アクティビティ
- 9：00 ファイナルミーティング
- 9：15 閉会式（修了証授与）
- 9：30 解散！！



【活動の様子】

最終日はこれまでより少し遅めの6時起床。朝食では残っている調味料や食材の組み合わせを工夫し、新しいおいしさの発見をしつつサンドイッチを食べた。食器等残りの道具のクリーンナップと自然の家の掃除を手分けして行う。

その後、ちよくさんから家庭教育支援推進の意味を含めて、家庭でできるAFPYの紹介があり、みんなで体験する。体を動かすことで、心もほぐれ、みんな笑顔で大いに盛り上がる。

いよいよ最後は3泊4日のファイナルミーティングだ。一人ひとりがこの4日間を振り返り、感想を伝え合う。「一人では何もできないことに改めて気づいた。」、「いつもみんなに助けてもらって感謝の気持ちでいっぱい。」、「オープンマインド。人の輪に飛び込むことができた。」、「ただのキャンプではないと分かった。」、「日々忙しく例えていうなら刀を振り回してばかりいるが、この4日間は刀を研ぐような時間になった。」等、この体験を通して手にした思いを言葉にしてもらった。自分が思っていることを言葉にすることは簡単ではない。この人たちなら聞いてくれるだろう、受け入れてもらえるだろうという信頼関係があるからできる話もある。この4日間で築いたチームの関係があったからこそ、出てきた言葉があっただろうと思う。

閉会式ではディレクターとスタッフからのメッセージが書かれた修了証書を一人ずつに手渡した。閉会式はちょうど3日前、体育館で11名が顔を合わせた時間とほぼ同じだ。それから約72時間、共に過ごしてきたほっとイレブン。決して長い時間ではないが、お互いを思いやり、信頼し、助け合える仲間になれた。本当にグッジョブなほっとイレブンだった。

3泊4日のキャンプは今日で終了だが、メンバーそれぞれの場所でまたチャレンジが始まる。背負う荷物が重たく感じて下ろしたくなる時もあるだろう。どの道を歩こうか悩む時もあるだろう。行き先が見えずに心が折れそうになるときもあるだろう。しかし、そんなときはこの72時間で手に入れたものを思い出して、家族というチームみんなで力強く一歩を踏み出して行ってほしい。

そんな思いを込めて、スタッフ全員で送り出した。

「行ってらっしゃ～い！！」